

# めぐみイエス・キリスト教会

2024年3月10日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第698号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150

【交読文】 No.40 詩篇第126篇 p. 911

【賛美Ⅱ】 新聖歌127「墓の中に」 p. 453

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ルカの福音書4章16節～22節(新約p. 115下段)

【礼拝説教】 《故郷ナザレの会堂において》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所 (ルカの福音書4章16節～22節)

4:16 それからイエスはご自分が育ったナザレに行き、いつもしている通り安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた。

4:17 すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その巻物を開いて、こう書いてある箇所に目を留められた。

4:18 「主の霊が私の上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主は私に油を注ぎ、私を遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、

4:19 主の恵みの年を告げるために。」

4:20 イエスは巻物を巻き、係りの者に渡して座られた。会堂にいた皆の目はイエスに注がれていた。

4:21 イエスは人々に向かって話し始められた。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書の言葉が実現しました。」

4:22 人々はみなイエスをほめ、その口から出て来る恵みの言葉に驚いて、「この人はヨセフの子ではないか」と言った。

### ●ポイント1.「主イエスが引用された聖書箇所」とは？

#### ※イザヤ書61章1節～2節「紀元前700年の預言として」(旧約p.1271)

61:1 神である主の霊が私の上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主は私に油を注ぎ、私を遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、

61:2 主の恵みの年、われらの神の復讐の日を告げ、すべての嘆き悲しむ者を慰めるために。

### ●ポイント2.「ナザレのイエス」とは？

#### ※マタイの福音書2章23節「ナーツァル(見張り)と言う意味」(新約p.3)

2:23 そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「彼はナザレ人と呼ばれる」と語られた事が成就する為であった。

### ●ポイント3.「愛」とは？

#### ※第Iコリントへの手紙13章13節「使徒パウロの勧め」(新約p.346)

13:13 こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

#### ※第Iヨハネの手紙4章9節～10節「使徒ヨハネの勧め」(新約p.483)

4:9 神はそのひとり子を世に遣わしその方によって私たちに命を得させて下さいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。

4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

## ◎先週の礼拝メッセージ【ガリラヤに戻る】

《さて、イエスは聖霊の力を帯びてガリラヤに帰られました。すると、その評判が周辺一帯に広まったとあります。つまり、何らかの大きなしるしが行なわれたことが分かります。それは、ヨハネが書き記した「最初のしるし」である「カナンの婚礼」の出来事です。

ガリラヤのカナで婚礼があり、そこには主の母マリアがいました。主イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれていたのです。おそらく弟子たちは給仕を任されていたのではないのでしょうか。婚礼の最中に何とぶどう酒がなくなっていました。主の母はイエスに向かって、「ぶどう酒がありません」と言いました。すると、主イエスは弟子たちに、「水がめを水で一杯にしなさい。」と言ひ、彼らが水を一杯にすると、「さあ、それを汲んで、宴会の世話役の所に持って行きなさい。」と言われたのです。その瞬間、水がぶどう酒に変わったのです。彼らはそのぶどう酒を味わって見ると、それは彼らが今まで飲んだことのない最高のぶどう酒でした。宴会の世話役は、花婿を呼んで言いました。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回った頃に悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」と。

イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行ない、ご自分の栄光を現わされたのです。それで弟子たちは主イエスを信じた。このことから、主イエスは、時間も行程をもコントロール出来るお方であることが分かります。つまり時を、主が握っておられるのです。

また、主が与えて下さる物は、二番手・三番手でもなく、いつも最高の物であるということです。その後イエスは、母と弟たち、そして弟子たちと共にカペナウムに下って行き、そこに滞在されました。

そして、カペナウムの会堂にて教え、奇跡を行なわれ、弟子たちをカペナウムに残して、故郷ナザレに向かわれたのです。》

### お知らせ

※次回は3月18日(日)となり、通常通り午前10時から行ないます。今年、3月31日(日)がイースター礼拝です。食事会を行ないます。